

(夏休み雑感) 甲子園今昔

高校野球は、昔から人気があったので、多くの人が、何がしか記憶にとどめている試合や選手がいるのではないだろうか。近年になって、多少人気が落ちたようにも感じられたが、3年前の「ハンカチ王子」と「マー君」の投げあいによる盛り上がりで、また人気を回復したように見える。

総合テレビと教育テレビを時間によって切り替えることはあっても、NHK が毎年、全試合を原則として完全中継するのだから、その影響力はすごいものがある。他のスポーツで、NHK がこれとほぼ同じ扱いをしているのは、大相撲だけではないか。

私は大阪の出身なので、子どものときには、何度となく、高校野球を見に甲子園に足を運んだ。特に、夏の大会を主催する朝日新聞には、知り合いがいたらしく、親がチケットを入手してくれたので、小学校低学年の頃から毎夏、主として兄に連れられて、内野のかなりよく見える指定席で観戦した。

戦争中に、内野席の上にあった鉄傘が供出させられていたため、戦後間もない当時は、たとえ内野席でも、夏の日差しをまともに受ける炎天下であった。「かち割り」と称する甲子園名物の氷を買って頭にのせ、持参した手拭いやタオルを被り、更にその上から麦藁帽子などを被るといって格好で、朝から夕方まで3試合も4試合も観戦するのだから、今から考えると、よく耐えたものである。

そんな中で、記憶に残る試合を一つだけ挙げるとすれば、1949年夏の準々決勝の小倉北高校対倉敷工業高校戦であろうか。もちろん、個人的には何の縁もゆかりもない高校同士の対戦であるが、当時の小倉北の福島一雄投手といえば、大変なヒーローで、2年前の1947年夏の大会に小倉中学のエースとして優勝。初めて、優勝旗が関門海峡を越したと評判になり、続く1948年の夏には、学制改革で中等学校野球が高校野球となっていたが、小倉高校の福島投手は全5試合連続完封勝利という快挙を成し遂げた。そして、1949年には、大会前から、福島投手を擁する小倉北高校(この年は校名がまた変わっていたが、現在は小倉高校の校名に戻っている)が三連覇を果たすかが、注目の的となっていた。

ところが、この準々決勝で、さすがの福島投手も遂に打たれ、甲子園から姿を消すことになった。このとき、彼が「甲子園の土」をユニフォームのポケットにそっと入れて持ち帰ったというエピソードが伝えられ、今日まで多くの選手が真似をするようになった。

この同じ年の春の選抜大会では、後に私が進学した府立北野高校が甲子園で全国制覇している。私の兄は戦時中に北野中学に入学したが、1948年春に学制改革で北野高校になるとき、同時に実施された男女共学で府立大手前高校に移っていたので、知っている選手はたくさんいたようだが、在校生ではなかった。ちなみに、1949年夏の優勝校は神奈川の湘南高校である。

小倉、北野、湘南いずれも有数の進学校だが、戦後のどさくさの時代には、このような学校が野球で全国制覇するなんてことができたのだから、正に今昔の感がある。